

第50回（2018年度）全国総会（概要）

第50回（2018年度）守る会全国総会は、2018年6月17日（日）11時～16時05分まで、神戸市勤労会館（神戸市）で開催されました。出席者総数は、代議員、全国本部役員、来賓、傍聴者合わせて約275名でした。

まず、これまでに亡くなった約1300人余の被害者に対する黙祷を行い、岡事務局次長が開会を宣言しました。

議長は奈良県本部の中村さんと熊本県本部の勝木さんが選出されました。

次に、桑田理事長が守る会を代表して挨拶し、「一人は皆のために、皆は一人のために」と守る会の団結の大切さを述べました。

そして、来賓祝辞を厚生労働大臣、兵庫県知事、神戸市長、ひかり協会理事長、森永乳業社長、兵庫県障害者連絡協議会、兵庫県地域救済対策委員長、協会労組委員長からいただきました（代読含む）。

祝辞の最後に、50回を記念して大塚睦子さん（14年目の訪問をされた事後調査の会のお一人）と新妻義輔さん（14年目の訪問の内容をスクープされた元朝日新聞記者）から当時の思い出を含む貴重なご挨拶をいただきました。

○ 午後からは、2017年度一般経過報告と決算報告が塩田次長と中島副理事長からおこなわれ、拍手で採択されました。

○ 続いて、2018年度運動方針案を平松事務局長、予算案・暫定予算案を中島副理事長、役員定数提案を江浪副理事長がおこない、代表発言と答弁（下記のとおり）のあとすべて圧倒的多数で採択されました。

○ そして、新役員選出。桑田理事長をはじめとする全国本部役員が選出されました。また副理事長を退任した前野さんが相談役に選任されました。

旧役員を代表して前野相談役、新役員を代表して桑田理事長の挨拶がありました。

○ 最後に兵庫県本部会員による総会宣言が全会一致で承認されました。

京都市で開催予定の来年度総会で再開することを誓い合い、閉会しました。



総会会場に集う代議員の皆さん



守る会を代表して挨拶をする桑田理事長

13都府県本部の代表発言（概要）

岡山県本部

（1）県本部活動（森永乳業神戸工場見学）

昨年、会員の皆さんから強い要望のあった森永乳業神戸工場見学が実現し19名が参加しました。工場に到着すると、記念撮影、会議室で工場の概要と乳製品ができるまでの製造工程の説明があった後、工場見学をしました。

各種乳製品の創造行程は、クリーンな室内環境の中で、人の手が触れることなく、全自動化されており、私たちヒ素ミルク中毒の被害者の一番関心のある安心・安全な製品づくりでは、最新の技術や最新の品質保証システムを導入し、徹底した衛生管理による再発防止活動を肌で感じることができました。

今回の工場見学は、森永乳業の製品づくりの精神に安心すると同時に感心する貴重な体験ができました。

実施許可をいただいた本部にお礼を申し上げます。

（2）65歳問題

障害を持っている被害者にとって65歳問題は深刻です。一般的な事例では、障害者手帳・療育手帳を持っていても、65歳までに障害者福祉サービスの制度を活用していない場合、65歳になって使おうと思っても、障害者福祉サービスは使えなくて、介護保険サービスだけに頼っているという問題が発生しています。

ひかり協会では、障害のある被害者をリストアップし、行政・専門家・協会・仲間同士のつながりを張り巡らせネットワークを活用し、個別対応するよう準備されておりますが、守る会としても在宅で生活している被害者の中には、障害者手帳・療育手帳を持っていても、障害者福祉サービスを使っていない被害者がおられるのではないかと心配しています。

65歳問題では、協力員活動・支部活動などを通して被害者の皆さんの状況を把握し、二者懇談会での議論や学習会など協会と協働しながら、行政懇談会、三者会談に要望意見を反映するなど、改善が図られるよう取り組みを強めます。

代表発言に対する全国本部答弁

岡山県本部（森脇 代議員）

（1）県本部活動

森脇代議員から、県本部活動として森永乳業の工場見学を行い、「安心・安全な製品づくりを肌で感じる事ができた」との報告がありました。常々会社に対しては、二者協議や会社研修の場で、「食の安全」を守ってほしいことを伝え続けています。森永乳業も事件の教訓から、徹底した衛生管理に努めているのだと思います。

（2）65歳問題

65歳問題については、各地で熱心に取り組んでおられる様子がよくわかります。岡山県本部からは、「協力員活動や支部活動などを通して障害のある被害者仲間の状況を把握し、ひかり協会と協力して行政協力を引き出していく」との報告がありました。行政に対しては、個別の具体的な事例をもって要請することが効果的で、岡山の取組は非常に参考になります。障害のある被害者の声を、仲間として行政に伝えきことは守る会の大きな役割だと思います。

本日の報告を参考にして、65歳問題の学習活動を広げ、具体的な事例を基に協会と協力しながら行政に対して改善するように訴えたり、仲間として思いを共有したりして、65歳の壁を乗り越えていきたいと思います。



答弁する久村事務局長



答弁する塩田事務局長



答弁する平松事務局長